

ダンス部専門 ——— MAGAZINE / WEB / YOUTUBE

ダ★ンスク!

d-s-k.jp

2023年

6 月号

No.42

TAKE FREE

元ダンス部の顧問
関西大倉／京都文教／二松學舎／初芝立命館

DCI今年は
東西地方大会を開催!

The★

選曲術

生きている味がする。



ION SUPPLY DRINK
**POCARI
SWEAT**

いよいよマスクなしでの練習が解禁になっていることでしょう。表情が見えにくかった世界から、一気に表情豊かな世界へ。ダンスも表情豊かに、喜怒哀楽全開、呼吸も思いっきり深く！練習では、より大きなエネルギーの交歓があるはず。真の表情とは、練習で作るものではなく、心から出るものです。心と表情はつながっています。苦しい時は笑ってみよう。嬉しい時は、その気持ちのままに顔を解放させてみよう。そう、心から出る表情が見ている人の心を動かすのです！

2023年6月『ダンスク!』編集長 石原ヒサヨシ

ダンスク!

『ダンスク!』2023年6月号(42号)



今月の表紙: DCC
イラスト: tamimoon

● Staff
● Publisher 石原 ヒサヨシ Hisayoshi Ishihara
● Designer RedRooster
● Printer 共同印刷株式会社 Kyodo Printing Co.Ltd
● 発行 株式会社ディーエスケイ DSK Co.Ltd
https://d-s-k.jp/company info@d-s-k.jp

本誌連動サイト
▶ <https://d-s-k.jp>
★サイト独自のダンス部情報
★ダンス部大会全チームレポート
★本誌見逃し記事を再掲載

本誌連動SNS

YouTube **ダンスク!TV**
@dansuku_tv

TikTok
@dansuku_tiktok

Instagram
@dansuku_magazine

Twitter
@danstreet203

●**無料購読のご案内**
「ダンスク!」購読ご希望の学校・団体の方は、以下までお申し込みください。

●**情報掲載・広告掲載のご案内**
株式会社ディーエスケイ
TEL: 03-6421-3275
https://d-s-k.jp/company
info@d-s-k.jp

●**本誌フリーマガジンの部数変更 新規申し込み 配布停止**
はこちら→ d-s-k.jp/dansuku_entry/

※部数変更・新規は次号からの対応です(今号の追加配達は不可)。
※配布対象は中高ダンス部あるいはダンス団体です。学校団体以外への配布には事前審査がございます。
※学校の場合、申し込みは顧問の先生が行ってください。

★ダンス部員・関係者のための情報が満載

『ダンスク!』バックナンバーのご案内

ご注文は…
[WEB] [ダンスク! store](https://danstreet.thebase.in/)へ▶▶▶
(<https://danstreet.thebase.in/>)

amazonで販売中!
『ダンス部ノート』
著: 石原久佳 / KKベストセラーズ刊
¥1,320 / 296ページ

『ダンスク!』バックナンバーのご案内

39号 2022.6
40号 2022.8
41号 2023.3

★ダンス部の教育的効果を6人の強豪ダンス部顧問が経験交えて語ります。部員にはダンス部での自身の変化や成長をアンケート。人気グループ「s**t kingz」の特別インタビューも。

★強いチームを作るためのノウハウを特集。リーダーを中心とした組織作りや、顧問/コーチとの関係性、練習メニューや作品の作り方、大会出場についてなどを強豪校を例にしながら紹介。

★創作ダンスからストリートダンスから、昨今台頭してきた「表現系」のチームを特集。まさに表現者と言えるプロダンサーのインタビューも(菅原小春 / 辻本知彦 / Miyu / O B A / GENDA)。

ダンス部ハンドブック 基礎編
著: 石原久佳 / 980円(送料込み)
リアルな現場取材を元に作られた唯一のダンス部向け入門書。そろえる道具は? 練習方法は? ヒップホップって? 振り付けはどうやって? などなど、ダンス部に必要な情報が満載!

各200円(送料別)

プロダンサーを目指すなら ワクワクできるダンス専門校

1.リーズナブルな学費でプロダンサーを目指す
2.基礎からしっかり学べる一流講師による熱血指導
3.卒業後すぐインストラクターとして活躍できる

ワクワクが止まらない

TOKYO STEPS ARTS

TEL. 03-6233-7739 HP: stepsarts.com

定番系

曲の背景を知って、カルチャーごと楽しもう！



音楽の歴史とともにダンスの歴史はある。ストリートダンスは約50年の歴史の中で「このジャンル(動き)と言ったらコレ！」というような定番曲を作り出してきた。例えば、70年代ならソウルやファンク、80年代ならディスコや初期ヒップホップ、90年代ならクラブ系ヒップホップ、2000年代ならR&Bなどなど、その中には誰もが一度は聞いたことがある「定番曲」がいくつかあるだろう。

ダンス部の大会を見ると、それぞれの年代の定番曲が満遍なく出揃っていて、まるでストリートダンスの歴史をおさらいするようでもある。顧問やコーチの世代や嗜好がモロに透けて見える選曲もあって、それを現代の高校生が楽しげに踊っているのが高校ダンス部の面白いポイントだ。定番曲だけに、玄人受け・シャッシ受けが良い傾向もある。

こういった曲を探すには、やはりネット検索が頼りになるのだが、その際、曲の「背景」も調べることがほしい。年代や歌手名、どのジャンルに属し、どんな時代背景から生まれた曲なのか、などなど。また、長年踊り継がれてきた曲だけに、適しているジャンルや具体的なステップ、ファッション、カルチャー感、そして前後にどの曲を繋いでいるかなどのいくつかの「マナー」が存在している。曲やダンスを長年皆が共有してきた文化として捉えているから、その楽しみ方を深掘りして、シャッシの手が思わす上がるパフォーマンスを目指してほしい。

特集

The★選曲術

「定番」「流行」「邦楽」「音響」でカテゴリ別解説！

作品を作る際に、まず最初の段階で行われる作業が「選曲」だろう。振り付けに入る前、踊る前に、選曲の時点で作品の命運がほぼ決まってしまうと言っても過言ではない。ここ数年の大会の傾向を見ると、選曲の傾向は大きく4つ「定番」「流行」「邦楽」「音響」に大別できる。今回は、それぞれの特徴と傾向を、プロのコメントを交えながら解説していきたい。文=石原ヒサヨシ(ダンスク!)



写真はすべて「マイナビHIGH SCHOOL DANCE COMPETITION 2023 FINAL」より

全チームレポートが「ダンスク!web」に掲載中



定番曲には必然性がないと



MAA (観明高校コーチ)

2000年代のヒップホップだと、バスタ・ライムスやミッシェル・エリオットなんか定番になりませんが、僕の場合は安易な感じになるので、あまり使わないですね。あえて使う場合は「なんでそこに来るか?」という前段階がしっかりしていないと、なるべく人と違うことをすることが僕の作品作りのベースなんですけど、知らなすぎる曲もダメだし、定番曲の場合は必然性がないとダメだと思います。

スキルをシビアに見られる面も



SHUHO (プロダンサー)

ダンス部では新曲を使う傾向は少ないですが、オールドスクール系の曲も関東では減ってきたかもしれせん。定番曲は、数曲を繋いでどう使うかがポイントだし、スキルをシビアに見られる気がしますね。ちなみに僕の場合は「Beatport」「Traxsource」「SoundCloud」などのサービスで曲を探してますね。

▼異面高校のようにオールドスクールダンスを基調とするチームにとっての定番曲は、まさに勝負曲!



選曲について → ダンス部員アンケート

(300人/2023年調べ)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| <p>Q1 作品作りで何に悩みますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 振り付け ② 選曲 ③ 衣装 | <p>Q2 初心者がわからないことは?</p> <ul style="list-style-type: none"> ① どんな曲で踊ればいいのか? ② ダンスの上達方法 ③ ジャンルや専門用語 | <p>Q3 選曲は誰がやる?</p> <ul style="list-style-type: none"> ① コーチや顧問 ② 振り付け担当 ③ 選曲担当 | <p>Q4 好きな曲は?</p> <ul style="list-style-type: none"> ① K-POPやJ-POP ② 洋楽 ③ その他 |
|--|--|---|--|

邦楽系

歌詞の内容を押し広げるような
解釈のダンスを

最近のダンスの最大の傾向が「邦楽曲の使用」だろう。少し以前から、叙情的なジャズダンスを壮大な「トロピコ」パレードに乗せるような手法がはじめていたが、最近ではK-OSOBEのようなテンポの速いJ-POPで踊るオンラインコンテストや、K-OSOBE系サウンドに「K-OSOBE」を乗せるような青春感爆発のチーム、そしてパブリックダンスに代表されるような昭和歌謡曲をコミカルにネタにしたエンタメ系まで、邦楽曲の増加によってダンス界に「何でもアリ」な状況が作られてきた感がある。当事者の若者にとっては、他の国のカルチャーを真似るよりも、自分たちの好きな曲で、ダイレクトに理解できるメッセージで、いろんな世代の観客と共有できるもので踊る方がよりリアルなのだろう。言い換えればそれは、日本にダンスカルチャーが真に根付いてきた証拠であるとも言える。

日本語で踊るといふことは、もともと抽象表現であるダンスに、より具体性を与える行為でもある。洋楽曲で踊る場合は、そこが曖昧だったからこそその輸入カルチャーとしてのカッコ良さがあつたのだ。邦楽曲の使用は、日本語で踊ることによっての伝わりやすさの裏側にある「伝わりやすさ」を「ど」だけ客観的に計ることができると言える。その内容より押し広げるような解釈のあるダンスを期待したい。



▼J-POPを使って、刹那的なイメージのパフォーマンスをする日大明誠。

日本語をどう踊るか？



MAA (観明高校コーチ)

僕にとって邦楽曲は飛び道具的な感じがしちゃうんですけど、土台に踊りのつまさがないと評価されないと思います。選曲の着眼点が良くても、商品化できていないような作品もよく見ます。それは、歌詞の内容をベタに表現しすぎていて、ジェスチャーのようなダンスになってしまった振り付けなど。例えば「好きだ」という気持ちそのまま言葉にするのではなく、どう言い換えるか？ということ。まさしく歌詞の作り方に似た発想がダンスにも必要なんだと思います。

プロの至言



▲流行曲のDJミックスなどをよく使用する千葉敬愛。

最新の曲で踊って楽しむのが ダンスの醍醐味！

流行系



音楽の歴史とともにダンスの歴史があつたことは先述の通りだが、それはその時々アップトゥデート(最新)の曲＝流行曲を踊ることによって、積み重ねられてきた歴史でもある。日本でもその昔、レコード会社が新しいダンスミュージックを流行らすために、ディスコのDJにサンプルのレコードを配り、新曲でのダンスコンテストを催すなど、流行曲とダンスは常に共にあつた。当時はそれらを振り返る音の曲を使つたということはダンスの現場ではあまりなかったはずで、昔の曲で踊ることは「ダサイ」「時代遅れ」というレッテルを貼られかねないことだった。

ストリートダンス界においては、1990年代～2000年代あたりのディスコやクラブを現場として盛り上げていた頃は、いかに最新の曲で、最新のステップを誰よりも早く踊るかを競っていたようなところもあつたが、2010年代にキッズや学生までダンス人口が及びようになると、先の定番曲が選曲の範疇として広がっていき、流行曲の使用比率は下がっていった。新曲をいかに早く踊って、それを皆で共有して、瞬く間に流行が去っていく…という意味では、今は「tik tokの『踊ってみた』がそんな現場なのかもしれない。

ともかく「ダンスを楽しむ」という行為はその時代のトレンドを皆で共有するということ。コンテスト目当てではなく、ほとんど流行曲を部活の練習で鳴らしていきたいですね！

曲探しも他と違う方法で



DJ Hiroking (DJ/ダンサー)

知っている曲流行っている曲で踊るのは基本いいことだけど、その前に自分の心が踊っている曲かどうか大事だと思います！最新の曲を知るには今はネット検索が便利ですね。YouTubeで流行曲を聴きまくって、そのアルゴリズムが出来てきて、ほとんど新曲を紹介してくれるようになるし、SoundCloudで自分のプレイリストを作れば「拡張」機能が使えて、類似曲をお薦めしてくれる。ダンス部ならそのアカウンツを皆で共有してもいい。あとは、昔ながらのアナログ手法でレコードショップに行く！面倒かもしれないけど、他と違うことをするから、差がつくわけです！

プロの至言



夏のダンス練習をひんやり快適に! Biore冷シリーズ



シーンと用途で使い分ける5アイテム

これからどんどん暑さを増す季節だね。

屋外や冷房がない場所で練習をすることが多いダンス部にはとっても強い味方「冷シリーズ」!

汗ふきシート

冷シート

- ふいた瞬間、肌温度-3℃! ※二往復拭いた場合
- 1枚で全身ふけるサイズ!
- 裸足で踊る足裏もキレイに!



汗を拭き取りさっぱり冷感!

冷却シート

冷タオル

- 首にかけて使える
46cm大判シート!
- のせる前の肌温度から
-3℃が1時間持続!

※30℃の屋外で使用した場合
(日なた・日陰の休憩含む)



こんなに広がる!

冷却シート

冷バンド

- 頭や体に巻いて使える
超ロング92cm!
- 巻く前の肌温度から
-3℃が1時間持続!

※30℃の屋外で使用した場合
(日なた・日陰の休憩含む)



さらに大判で使い方がいろいろ!

冷却シート

冷メンテマスク

- 顔を冷やして気分
軽シャキッ!
- 練習後や帰宅後に
顔の熱(ほてり)をスッキリ!



ピオレ独自開発のマスク型!

冷却スプレー

冷ハンディミスト

- シュッとした瞬間肌温度-10℃!
- 逆さでも使えるボトルで
手の届きにくい背中にも!
- 持ち運びに嬉しいロック機能つき!

※気化熱による ※30℃の屋外で使用した場合



熱った肌に直接シュッ!



▲バトル系のヒップホップでダンスを効果的に見せる仙台南南。これもまた音響系と言える。

芸術表現としてのダンスを 追求するBGM 音響系



「音響系」とは何を指しているかと言うと、歌のないインストゥルメンタルで、さらにはダンスミュージックほど規則的なビート感が強くなく、曲の印象としては抽象的、いわゆるアンビエント(音響的・残響的)と呼ばれる曲のことを、本記事ではそう呼ぶことにする。ここ数年でストリート系の大会に進出してきた創作ダンス部が、自分たちのスキルや表現力をより際立たせるために使用し、それがダンス部界全体に及んでいる傾向もある。ダンスのジャンルとしては、ジャズやモダンバレエをベースとした、女性らしさやメッセージを打ち出した作品にマッチしている。

曲の探し方としては、クラシックやアンビエント系のアーティストを聴きまくったり、コンテンツポラリー系の舞台で使っている曲を調べたり、映画のサントラなどから探すのも良い。特に流行や定番があるわけではなく、踊り手のアンテナや感性主導の選曲なので、定番や流行曲のように曲が踊りを助けてくれるような構造もほほえない。自らの技術とアイデアと表現力、そこにBGMとしての曲があって、それらが共存することによって独自の世界観が生まれるわけだ。

コロナを経て時代は変わり、こんな音響系で抽象的な表現をアプローチするダンス部は増えてきている気がする。難しいトライではあるが、芸術として、表現としてのダンスを追求したいチームにはぜひ取り組んでほしいアプローチである。

アーティストと共鳴した曲を

プロの至言

曲探しには時間がかかりますね。体の中から溢れてくるようなダンスを踊り、人間味溢れる作品を作りたいから、私は有名な曲は使わないんです。昔はよくサントラから探してましたが、展開が見えてしまうと場所があって、今は、あるアーティストさんの曲を集中して使ってます。そのアーティストさんと私の作品が共鳴しているような気がしているし、世界観も作りやすいですね。

木下ひなた
(関西大倉高校顧問)

強豪ダンス部もひんやり! MOVIE

1 冷シリーズ×京都文教ダンス部

猛練習で有名な京都文教高校では、冷シリーズを使って暑い練習を乗り切る「冷テク」をご紹介します!



※2022年度の動画です。



2 冷シリーズ×三重高校ダンス部

ダンス部界でNo.1のシリアスフレーバー! 名物「ハイテンション練習」を抜けた部員が次々に冷シートをGET!



※2021年度の動画です。



CHANCE! モニター校募集中

冷シリーズをぜひ使いたい

というダンス部は...
学校名/欲しいアイテム/ひと言を書き添えて、
info@d-s-k.jpまでメールしてね。
抽選で部員全員分をプレゼントします!

元ダンス部の顧問

4人にとっての昔のダンス部／今のダンス部

インタビュー&文:石原ヒサヨシ(ダンスク!) 写真:今田和也、村田卓

ダンス部の顧問の先生たちは、キャリアも年齢もさまざま。それぞれの世代や感覚でダンス部を指導するからこそ、ダンス部全体の作品の多様性も広がっているのだ。その中でも、高校時代にダンス部だった部員が、その後教員になってダンス部の顧問を受け持つような形も増えてきた。ダンス部出身だからこわかること、生徒に寄り添えること、ダンス部の昔と今の違いなどについて語ってもらった。



当時テレビ番組が入るほど注目されるダンス部だったそうだが、番組内で高校時代の松澤先生は「将来の夢は踊れる先生になることです!」とコメント。実際、それをきっかけに部員へのダンス指導により力が入るようになり、その後大学ではダンスサークルを創設、初心者部員のダンス指導に熱を入れていく。

松澤 龍先生
顧問は一番長くダンスに関わっていられる立場

バチバチのポッピングとスタイリッシュなヒップホップで、ダンススタジアムのバトル東日本大会を8連覇中の二松学舎大学附属高校。その顧問を務める松澤先生は、部員の兒貴的存在でもあり、憧れのストリートダンサーだ。「ダンスは中学生の頃から見よう見まねで始めていて、国学院高校でダンス部に入りました。その部はブレیکن中心でしたが、より個性を求めてヒップホップやポッピングも取り入れるようになりましたね!」

生だったアーティストとの共演MVでは130万回を超える再生回数を叩き出した。「ありがたいことなんですけど、何かを達成した時には次のことをやり始めてしまっているの、なかなかこれで満足という感じにはならないです。まだまだやりたいことがたくさんありますから(笑)」

教育者としての考えの多くを自身のダンス経験で培ってきたという矢下先生。ダンスを通じて、人や社会と関わることで信条としていることは?

「リスペクト(尊敬)ですね。他者の違いを認めることです。部内でも各自のダンスへの取り組み方への違いを認めること。それに、ダンスって特にうまくなくても、見せ方や見せる対象によって、価値を出すことができる。そういう表現の幅の広さを、ダンスを通じて学べると思います!」

初芝立命館高校
小坂谷ゆき乃先生
ダンス部で学んだことを恩返ししていきたい

ダンススタジアムは今年で16回目となるが、当然その出場経験のある高校生が、ダンス部顧問となるケースも出てきている。一昨年のダンススタジアム SMALL CLASSの覇者である初芝立命館の顧問小坂谷先生は、樟蔭高校のメンバーとしてダンススタ出場経験を持つ。「それまで創作ダンスの大会に出ていた樟蔭が初めてダンススタに出た7年前の部員でした。ダンス部の作品を創作する経験もそ

「単純に知識がないと教えられないと思うので、いろんな映像を見まくって、自分でやってみて、ジャンルや技の成り立ちなども調べて、それらを言語化して指導できるようにしていました。自分は学生時代にトップのダンサーではなかったし、そういった劣等感があるからこそ、初心者がうまくできない気持ちもわかる。だから、教えることでは一流になろうと、毎日トライアンドエラーを重ねていましたね!」

大学卒業後は現在の学校へ赴任し、ダンス部を立ち上げ。自身いわく「一番長くダンス



うですが、学校の身体表現コースでもたくさんさんのことを学びました。何かを表現することや、人と何かを作り上げること、自分の役割以外にも意識してチームとして動くこと...、生きていく中での、可動域が広がったような気がします!」

大学卒業後は、募集のあった初芝立命館大学高校の体育教諭に。日本一になった翌年にダンス部の顧問としての重責を担うことになる。

「私が学んだことをどこかで恩返ししたいなと思っていました。ダンスを通じて、人が何を求めているか?ということを学んできたので、それは大会で審査員の評価を得ることと同じだと思っています!」

生徒と歳が近いせいもあって、より身近に寄り添える存在である小坂谷先生。「あまり先生だと思われてないかもしれない

に関わっていられる立場」としてダンス部の顧問の道を選択するのだ。今年で10年目先のバトル8連覇はじめ、常に全国のトップを走り続けている。「昔のダンス部はただ自分たちがカッコいいと思うことを追求していたのですが、今のダンス部は大会で勝つためにやっているところはありません。ウチでは何がカッコ良くてそうでないか?—その感覚を養うことを大事にしています。ダンス部で自分の感覚を養って、卒業しても、就職しても、生活の中にダンスがある人材になって欲しいですね!」

京都文教高校
矢下修平先生
他者との違いはリスペクトを学べるのがダンスの良さ

大会での入賞やメディア出演など、年々頭角を表している京都文教中高。ストリートダンスのファンキーなノリを武器にする京都の代表的ダンス部だが、その顧問も元気でノリ良し、まさに文教ダンス部を体現するような先生だ。

「私の出身は三重県で、ダンス部は高校なのにインカレで、他の高校の生徒も集まってくる部活でした。三重高校の顧問の神田橋先生もその仲間ですね。活動は地元のイベントに出るぐらいでしたが、当時京都にすごいブレیکنのチームがいて、ダンス部の仲間みんなで京都の大学に進学して、それぞれの大学のダンスサークルに入ろうってことになったんです!」

そして矢下先生は京都の教育系の大学に

いんですけど(笑)、壁もなく風通しよく話も聞けて、生徒と同じ目線で一緒に頑張っているという関係性は、私が元ダンス部員だからこそだと思います!」

生徒と顧問、一丸となって挑む今年の大会でも、初芝立命館のフレッシュなパワーから目が離せない。

関西大倉高校
木下ひなた先生
仲間が愛おしくて一番の宝物だと思える部活に

昨年のダンススタジアム BIG CLASS 2度目の出場での準優勝という快挙を成し遂げた関西大倉高校。その立役者は、顧問就任2年目、元帝塚山学院ダンス部出身の木下先生だ。「私が帝塚山の時にはダンススタジアムは出ていなくて、バブリーダンスが話題になって

進学し、卒業後は京都文教中高に赴任。その当時からダンス部はあったのだという。「今とは違って、そんなに大会にガンガン出るようなダンス部じゃなかったですね。アクセサリーをつけてメイクして、ガールズヒップホップやっているような、よくある感じでした。そこでストリートダンス系の大会に出てみたところ、部員たちは周りのレベル差に唖然としてしま...、生徒徒が“自分たちもあんなにうまくなれますかね?”とやってきたので“ほな、一緒にやってみようか”って、真剣に取り組んだのが始まりですね!」

基礎体力作りから、技術の向上、規律や礼儀、もちろん学業との両立も。ダンスのジャンルは、矢下先生も経験のあったロックダンスにフォーカスし、ストリートダンスらしさと高校生らしさがミックスされた作品作りで、徐々に大会で目立ち始める。メディアからの出演の引き合いも増え始め、矢下先生の同級



いる時期でした。その後、出場するようになって優勝した時は嬉しかったですね!」

3歳からバレエを始め、高校時代は「口で言うより行動で示す」タイプの熱血部長。その後、筑波大学へ推薦入学し、ダンス技術だけでなく体の仕組みについて、そしてさまざまな芸術作品に触れていく。

「私はダンスというより表現世界みたいな芸術に惹かれていました。大学でも、新しい表現を作ることを追求していましたし、いざ私自身が振り付けしてもやはりそういう作品になりますね!」

その関西大倉の準優勝作品はまさに圧巻だった。独創的な振り付けと選曲、抽象的な表現による多層的な世界観。ダンス部大会を新しい地平へ誘うものでありながら、同時にアンチテーゼのような存在感を放っていた。「終わってすぐに拍手が出ない作品。見ている人に余韻が残るような、問いかけるような作品が私は好きなんです!」

木下先生が就任する前の関西大倉はいわゆる普通のダンス部だった。それを短期間で、しかも1日1時間という練習時間で指導し、基礎力の向上とともにチームの活気も急上昇。作品の力と成功体験が、生徒のやる気と自主性をグンと引き出し、今年には本気で日本一を獲りにいくという。

「顧問に就任した当時、もっとうみんなで何かを作り上げる喜びを味わって欲しかった。だから最初は厳しかったです。そして引退する時には、仲間が愛おしくて一番の宝物だと思える部活にしてほしいですね!」

ダンス部界の若いチカラ、木下先生と関西大倉は猛スピードで今日も進化を続けている。



オンライン予選

エントリー期間:4月17日(月)~ 6月15日(木)
撮影・映像提出期間:5月1日(月)~ 6月30日(金)
予選結果発表:7月16日(日)

地方大会

関東地方大会

日程:7月9日(日)

時間:調整中(午後開始予定)

会場:カルッツかわさき

エントリー期間:4月17日(月)~6月15日(木)

関西地方大会

日程:6月17日(土)

時間:調整中(午後開始予定)

会場:メルパルクホール大阪

エントリー期間:4月17日(月)~6月8日(木)

決勝大会

日程:8月24日(木)

※各地方大会の上位3チームには決勝大会のシード権が付与されます。
※オンライン予選大会とのダブルエントリーも可能です。

会場・観覧・配信などの詳細はオフィシャルHPにて後日発表!

<https://dcc.jsda.info>



AVEX PRESENTS
DANCE CLUB CHAMPIONSHIP
第11回全国高等学校ダンス部選手権
POWERED BY ニチレイ「本格炒め炒飯®」

今年のDCCはオンライン予選に加えて、**東西地方大会**を開催!

オンライン予選 **6/15**
関西大会 **6/17**
関東大会 **7/9**
決勝大会 **8/24**

★関東・関西での地方大会を開催!

コロナも終息に近づき、エントリー校も増加傾向、より高校ダンス部シーンを活性化させるために、今回のDCCは地方大会を東西で開催! 大会作品の手応えを知るため、大会の緊張感に慣れるために、ぜひリアル大会に参加してみよう。もちろん、オンラインでの動画予選もこれまで通りエントリー受付です!



▲関東大会の会場はカルッツかわさき。



▲関西大会の会場はメルパルクホール大阪。

★特別賞受賞校の顧問が語る「DCC」の魅力

上位入賞校の他に、さまざまな特別賞があるのがDCCの魅力。ダンススキルだけでなく、個性や表現力、エンターテインメント性も評価するDCCならではのブライズだ。昨年の受賞校も個性派のダンス部ばかり! 顧問の先生に、DCCの思い出や魅力を聞いてみた!

TOKYO HEADLINE賞

トキワ松学園高校

受賞理由 作品にインパクトがあり、衣装も印象的。副賞である「TOKYO HEADLINE」特別号の表紙に相応しいチームを選ばせて頂きました。

生徒たち中心に大会が作られている

TOKYO HEADLINE賞では号外で自分たちの特集を掲載していただきました。作品テーマの表現を、ビジュアルまでこだわって考え、話し合っ研究したので、それが伝わって嬉しかったです! 二文字で作品の世界観を伝えるために、各校が試行錯誤するのも面白いです。国語の先生に頼ったり、辞書を片手にダンスを考えたり。DCCの魅力は、生徒たち中心に大会が作られていると感じるところです。DJタイムやLEADERS SHOWCASEで、他校さんと関わりが持てるのもとても盛り上がりですね。こんなすごい舞台を参加費無料で開催して下さるのも、部費があまりない学校ダンス部にとっては嬉しいところです。(佐々木先生)



ニチレイフーズ賞

大阪府立登美丘高校

受賞理由 ニチレイフーズの企業コンセプト「くらしに笑顔を」に近いテーマで、会場全体を笑顔で明るい気持ちにしてくれるダンスナンバーが圧倒的でした。

観客の皆さまにどれだけ楽しんでいただけるか?

akaneコーチからcorinコーチに変わった2つ目の作品で、TDC(登美丘高校)らしい楽しい作品で受賞させていただきました。コロナ禍の影響で困難が多かった代だけに、特別賞という褒めが本当に嬉しかったです。DCCは、エンターテインメントとして、観客の皆さまにどれだけ楽しんでいただけるか、ということが重視されている大会だと感じており、そこがTDCの方向性に合っていて、いつも大会を楽しんでいます。ロビーに飾られていた学校紹介パネルを持って帰っていい、と言ってくれて、喜んだ部員たちはあの巨大なパネルを持って、ワイワイ大騒ぎで持ち帰って来ました! それだけ思い出深い大会だったようです(笑)。(南出先生)



Chiyoda賞

武南高校

受賞理由 オリジナルシューズをカッコ良く履いて踊っていただける学校にお渡ししたいと思い、選ばせていただきました。チヨダは今後もダンスを足元から応援します!

今の武南ダンスを創り上げた大会

当日会場で「オリジナルシューズ作ってもらえたらいいよね!」と、Chiyoda賞の受賞も狙っていたので、発表された時には全員喜びのあまり飛び上がっていました。第5回に初出場した当時、テーマや表現力を重視した大会が少なく、「自分たちの長所を生かすことのできる大会だからチャレンジしてみよう」というのがきっかけです。初めて出場することのできた全国大会で、今の武南ダンスを創り上げた大会といっても過言ではないと思います。漢字二文字を表現するために、表現力はもちろん、技術やビジュアルなど総合的に判断しながら作品を創りあげなければならぬ、唯一無二の大会だと思います。(宮谷先生)



オーディエンス賞

日本大学明誠高校

受賞理由 「オーディエンス賞」はDCCの公式アカウントにて、各チームが紹介された投稿の「いいね」やRTの数を競い合う賞です。

自分たちの作品と深く向き合う大会

受賞時は活動補助として30万円をいただき、本校では自主公演の照明代として使わせていただきました。DCCは、漢字二文字のテーマを表現するというので、生徒たちは自分たちの作品と深く向き合うことにもなります。その場で採点されることもコンテストを盛り上げる要因になっていると思います。2019年から全国大会に出場させていただきました。いくつかの賞をいただいています。どの賞にも思い入れがあり、部のテーマである「一生もの」になっています。優勝を目指し挑む価値のあるコンテストであると考えています。(小泉先生)





× ダンスク!

ガチ DANCE部サポート通信

開放感にあふれたポカリスエットの新CM、ぜひチェックしてみてね!

新CM「青が舞う」は新時代の応援歌! 初のWヒロインの青春ストーリーをチェック!



「生きている味がする」——

これまでの制限があった世界から解放されるように、新生活がスタートした! 特に、ダンスに熱中している10代のみんなは、とんでもないエネルギーと可能性を秘めている。日々、普通に生きている喜びをカラダいっぱい仲間とともに味わってこう!

そんなメッセージを感じさせるような、ポカリスエット新CM「生きている味がする」。毎回話題になるヒロインは、ポカリCM初のWヒロイン、椿(つばき)と池端杏慈(いけはたあんじ)だ。彼女たちにとって「生きている味」とは——?

池端「ダンスをしている時です。K-POPダンスが大好きで。ずっと好きなグループもあれば、最近好きになったグループもあって、自分が好きなことをしている瞬間が「全力だな」って感じます」

椿「全力で過ごしてるって思うのは部活の時。試合の時も仲間と協力して頑張ってる、最後にポカリスエットを飲む。撮影もオーストラリアで暑かったので、撮

影した後にポカリスエットを飲むのが「生きている味がするな」って思います」

2人を中心とした高校生たちが、画面いっぱいに走り、跳び、声を上げ、手を繋ぎ、抱き合い、ダンスする。これまでできなかったコト、自由に躍動し、仲間と触れ合っていく喜びと希望を、みずみずしい映像で紡いでいる。水しぶきや青い花びらが鮮やかに映像を彩り、その中で汗と笑顔を浮かべる高校生たちの手にはポカリスエットが。

飛内将大が作詞・作曲・編曲し、19歳の北谷琉喜が歌う、書き下ろし曲「青が舞う」のメッセージもキミたちの背中を後押しする。

夢が僕らを追いかけるように
時が僕らを追いかけるように
走れ走れ 走り続けよう
さあ、生きている味をかみしめて、走り続けよう。
踊り続けよう。

ポカリスエットは、いつでもそんなキミたちを応援しています!



CM動画
「青が舞う」75秒



メイン動画

ポカリスエット × ダンスク!
ダンスク! TV
YouTubeで毎月3本公開中!

- ★強豪校の練習シリーズ (公開予定) 大阪府立箕面高校、沖縄県立小禄高校
- ★ダンス部員の本音トーク!
- ★注目のダンス部員
- ★ダンスバトル講座(新)



@dansuku_tv



Ringo Winbee

リンゴウィンビー



未来を見つめる、その視線。

世界レベルのポップダンサーとしてキッズの頃から活躍し、SNSやメディアでもインフルエンサーとして活動。現役女子大生として学業にも勤しむRingo Winbee。未来を見つめる、その視線に迫ってみた!



編集部
オススメ!
「プレジジョンワン」
をCHECK!!



Ringo Winbee
スペシャル
MOVIEを
CHECK!!

・個人の感想です

「ズレないとか取れにくいとか、装着時の安定感をまず重視しますね。そして、乾燥しにくいことも。ステイジは意外に乾燥していて、照明がキラキラしているから、目が乾きやすいんです。とにかくダンスに集中できるものを選ぶのがポイントです。フィット感がよく、柔らかい素材で、つけている感覚がないくらいのレンズが理想ですね」

そんな彼女に理想のコンタクトレンズを聞いてみた。「ズレないとか取れにくいとか、装着時の安定感をまず重視しますね。そして、乾燥しにくいことも。ステイジは意外に乾燥していて、照明がキラキラしているから、目が乾きやすいんです。とにかくダンスに集中できるものを選ぶのがポイントです。フィット感がよく、柔らかい素材で、つけている感覚がないくらいのレンズが理想ですね」

「やっぱりステイジやバトルって位置感覚が大事だから、自分の空間がクリアに見えた方が自由に自分を解放できると思います。視力に自信がなくなってきたダンサーには、ぜひコンタクトをお勧めしたいですね!」

「暗いステイジで、よく見えない状況で踊るのって怖いんです。見たいダンサーがステイジではっきり見えないこともありました。思春期だからメガネかけるのも抵抗があったし、やっぱりメガネは踊る時にも気になりますね」

「小学6年生の時に台湾のバトル大会が私の転換期でした。たったワンムーブで、会場から一気に注目されて準優勝できたんです。そこからどんどん海外にも呼ばれるようになって、いろんな経験をさせてもらいました。海外のバトルは、いい動きに対しての反応が大きくて、気持ちよく踊れるんですね!」

「クリアに見えれば解放できる!」

「ダンスを始めたのは5歳から、地元のスタジオに通い始めました。最初はシャイでレッスンに行くのも恥ずかしかったけど、音楽にノるのが楽しくなってきた、もっとうまくになりたいと思って、1日4時間以上とか練習していましたね。ダンスで自分をありのままに表現すること、音にパチッとハマった瞬間、それを見た人が喜んでくれることが最高に嬉しいんです!」

ワンムーブで世界が広がった!